

り楽になった。失礼な言い方になるけど、「コピー」と「貼り付け」で、ある程度のごまかしはきく。そんなことよりも、現場に飛び込んで検証し、当事者に会ってナマの声を聞いてほしい。きっと収穫がある。ぜひ、足を使ったフィールドワークをお勧めしたい。

発表の際の注文が、一つだけある。もっと大きな声をだしてほしい。ボソボソ、モジモジは、いかにも自信なさげに見え損をする。歌舞伎役者の値打ちは、口跡の良し悪しできまるといふ。私はかつて、知人の大学教授にたのまれ新聞社を志望した学生にたいし、面接では大きな声をだしなさい、とワンポイントだけ助言した。かれは、そのことを実行し、合格を果たした。単純だなあと誤解されても困るが、そんなものだ。企業が学生に元気よさを求めるのは、新入社員のエネルギーを使って組織を日々、活性化したいからに他ならない。

最終的に説得力の決め手となるのは、パワーポイントのデジタル情報ではなく、人間の肉声である。

第5分科会

第4回商学部グループ研究発表会 審査講評

元ダイハツ工業株式会社 副社長 深森 芳昭

1. 第5分科会全体の講評

まず発表されたグループの方々に、「ご苦労様でした」と申し上げたい。ある一つのことを研究して、まとめて発表するということは大変努力の要することであり、発表までの数ヶ月間はかなりプレッシャーがかかったものと推察します。その努力と経験は必ずやこれからの色々な場面で、大きな自信と誇りとなっていくことでしょう。

さて「大学のグループ研究発表会」の審査委員の要請を受けて、若い方々のフレッシュな考えや意見に接することが出来るという大いなる期待を持って審査に臨みました。結論から言って、私の期待は半分達成、半分未達成に終わりました。達成の部分は、各グループとも真面目に、真剣に取り組んでいる姿に感心しました、また先生方がある面では、学生諸君よりも一生懸命この発表会を成功させようと努力されている点に感服いたしました。

未達成の部分は、各グループを通じて言えることですが、研究テーマに対する探究心が浅くて狭いことです。従って発表の「まとめ」、「結論」が短絡的に陥りがちな点です。篠原外部審査委員も最後の講評でおっしゃっておられたように、「自分の足でかせぐ」ことが欠けているのと、もっと学生としての純粋な疑問に基づいた研究、発表がすくなかった

ことです。例えば「飲酒運転」や「ニートについて」という非常に学生諸君にとって身近なテーマを取り上げていながら、研究の内容が一般的、常識的で「学生としての視点」「若者としての視点」からの論及が見えてきません。従って「結論」、「まとめ」も「飲酒運転をなくするためには」→「罰則強化」、「ニートについて」→「ネオニートは認めるが、ニートは認めない」等になってしまったと思います。

私の育った自動車産業界では、「現地・現物・現実」ということをよく言います。書類やデータ、人の言っていることだけで物事を判断するのではなく、自分の足で物事が起きている現地に行って、自分の目で現物、現実を視て考えることを仕事のすすめる基本としています。この基本に従えば、不幸にしてニートになっている人への接触、中古教科書ユーザーの生の声、学生の飲酒運転の実態、福岡観光客の生の意見収集等々、本やデータ集にない自分達だけのデータを集めてほしいのです。そうすれば、発表も自信にあふれフロアーにも感銘を与えることになるでしょう。

もう一点気になったことを言いますと、なぜこのテーマを選んだのか、何が研究できれば目的が達成できたとするのかが、資料にも発表にも出てこないのが気になります。

テーマを決めて、各メンバーに課題を割り振っていくという内容がおそらくグループ研究の過程であったと思いますが、発表会の場でその事に触れれば、グループ全員で取り組んだことが伝わってきます。

2. 各グループに対する講評

個々のグループについては、当日に質問ないし意見で一部述べさせていただきましたが、簡単にふれてみたいと思います。

①「飲酒運転～現状と対策～」

全体の講評のなかでも申しましたように、もっと身近な現実を掘り起こして欲しかったです。九産大の学生の飲酒運転の現状はどうなんだろうか、福岡県警は学生になにを望んでいるのだろうか等々生きた内容に迫れば、発表も迫力に富むし、その中から自分達のなすべき事が浮かび上がってくるような気がします。従って結論も、違ったものが出てきたかも知れません。若い皆さん方、飲酒運転は絶対しては駄目です。

②「粉飾事件について～カネボウ・ライブドアの事例に基づいて～」

大げさに言えば資本主義社会の根幹を成す株式市場の信頼を揺るがす、粉飾事件をテーマとして取り上げたのは、時流を読んだいい発想だと思いますが、内容が総花的になって、焦点が定まらなかった感じがします。例えば、テーマがカネボウ・ライブドアの事例として

いるのであれば、他の粉飾事例とこの2例はどこに特徴があるのかに絞りこんでいけば、もっと公認会計士の監査制度や損益報告書の開示内容の大切さ（営業利益、経常利益の意味、連結外し等）、堀江ライブドア前社長のこだわった時価総額等々に迫っていったし、発表も生き生きしたものになったと思います。

③「中古教科書売買支援システム・リブックスの改善について」

非常にきめ細かく、しかも分かりやすくシステムの改善の過程を発表されていたのには感心しましたが、どうしても使い易さを目的とした、手順の説明に終始し、本来の狙いである中古教科書の売買実績を上げていく点の内容が欠けていたのが残念です。質問で成約数を聞いて、大変少ない数字に驚きましたが、おそらくレジュメの冒頭に記載されていたように「eコマースの実体験するサイトとして」が本来の狙いかと思われませんが、それではその狙いはどう検証されているのか発表内容にとりあげてほしいと思います。また6年間に亘って先輩達が開発したこのサイトを引き継いでいくのも大切ですが、このサイトの成果をベースにもっと学生諸君の望んでいるサイトの立ち上げのタイミングに来ているような思いを禁じ得ません、頑張ってください。

④「わが国の若年層における勤労問題～ニートについて～」

学生諸君の同世代でこれほど身近なテーマはないとおもいます。それゆえ大いなる期待を持って発表を聞きましたが、内容が表面的になってしまった感が否めません。もっとテーマを学生としての立場から、若者としての立場から掘り下げていけば、特徴ある内容になったと思います。今や東大生の30%が自分はニートになるかもしれないと告白している時代です。九産大生の実態はどうなんですか、先輩達はどうなんですか、探求する問題がどんどん湧いてくる筈です。

また、ニート問題は本人だけの問題と片付けてしまっているのでしょうか、社会や企業の労務政策に問題があるような気もします。もっと素直な疑問を持って、それを地道に追求していくのも立派な学問の道だと私はおもいます。短絡な結論に陥らずに、このテーマを後輩に引き継いでほしいくらいです。

⑤「福岡の都市観光と交通～九州の玄関口から観光拠点へ～」

楽しいご当地テーマにふさわしく、発表の際のプロジェクターが美しく、非常によくできていました。写真をふんだんに使い臨場感に溢れていました。内容もしっかりしていましたが、実際の観光客の声がどこにもなかったのが残念です。観光地に行って、インタビューを試みてください、福岡をなぜ素通りするのか生の声が聞けたはずです。今や日本人より外国人を観光に呼び込む時代です。外国の方を福岡に呼び込むにはどうしたらよいの

か外国人にアタックしてください。そうしたらもっといい発表になったとおもいます。

3. おわりに

以上色々独断と偏見で勝手なことを記述しましたが、グループ研究発表会が回を重ねるにしたがって、益々充実したものになることを祈念いたします。

最後にフロアで発表を聴講された学生諸君に対してですが、司会の方に指名されるまで質問や意見を述べなかつたのは、少し寂しく思いました。しかも声が小さく、元気が感じられませんでした。もっと恥ずかしがらず疑問に思ったことを、発表を聞いている時にメモ等して、どんどん手を上げるようにしましょう。それが発表者に対する礼儀なのです。

謝 辞

最後に、この場をお借りして、商学会の活動にご協力いただいたすべての方にお礼申し上げます。とくに、高田和宏先生、高木昇先生、二階堂正憲先生、平野英一先生、金子順一先生、森高正博先生、篠原治二先生、三浦弘次先生、深森芳昭先生、山田秀先生には、年の瀬のお忙しい中、商学部グループ研究発表会に参加されただけでなく、学生らに期待を込めて、厳しくも暖かい叱咤激励をいただきました。改めて感謝申し上げる次第です。

(編集委員：高橋公忠・後藤孝夫・木村麻子)